

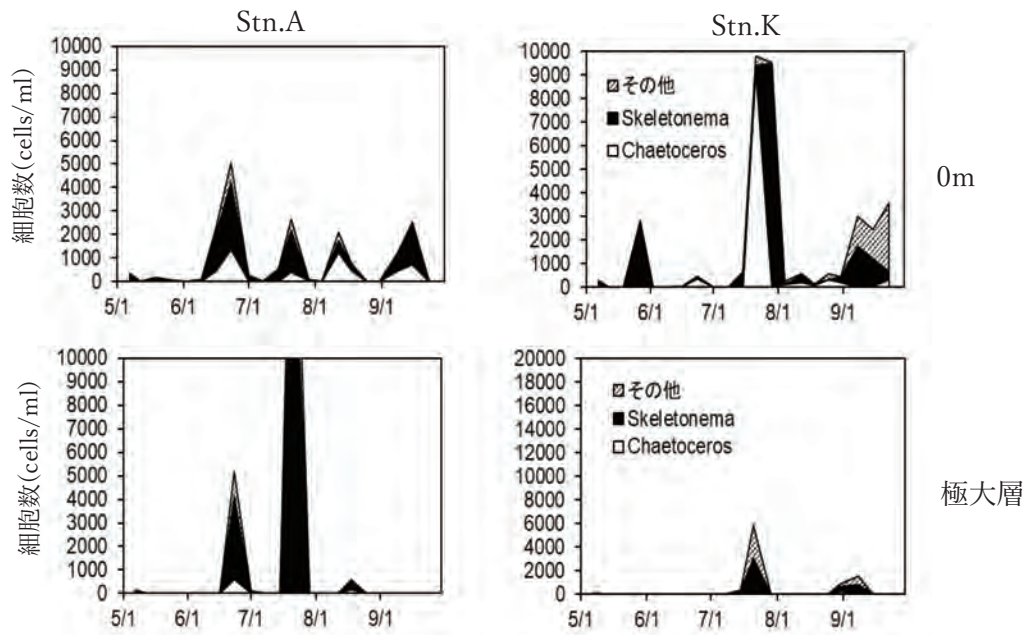


図 18-2. 八代海 (Stn. A および C) における珪藻類の推移.

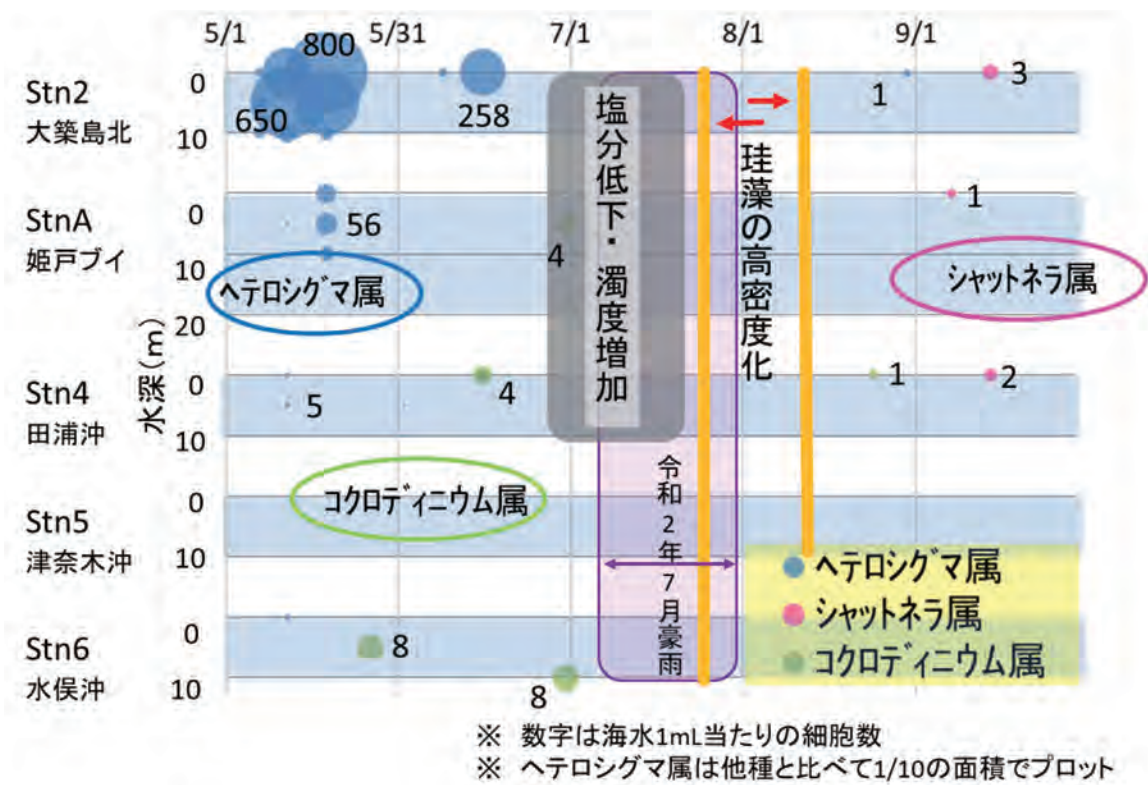


図 19. 2020 年夏季八代海における植物プランクトン種遷移の概要.

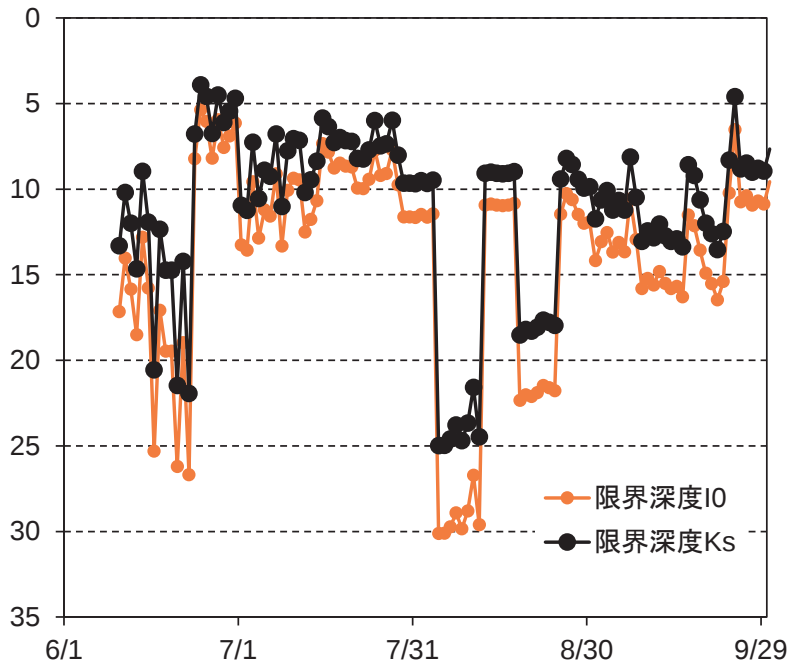


図 20. 八代海 Stn. A における限界深度の推移. I0 : 補償光強度, Ks : *Chattonella antiqua* における最高増殖速度の半飽和定数.

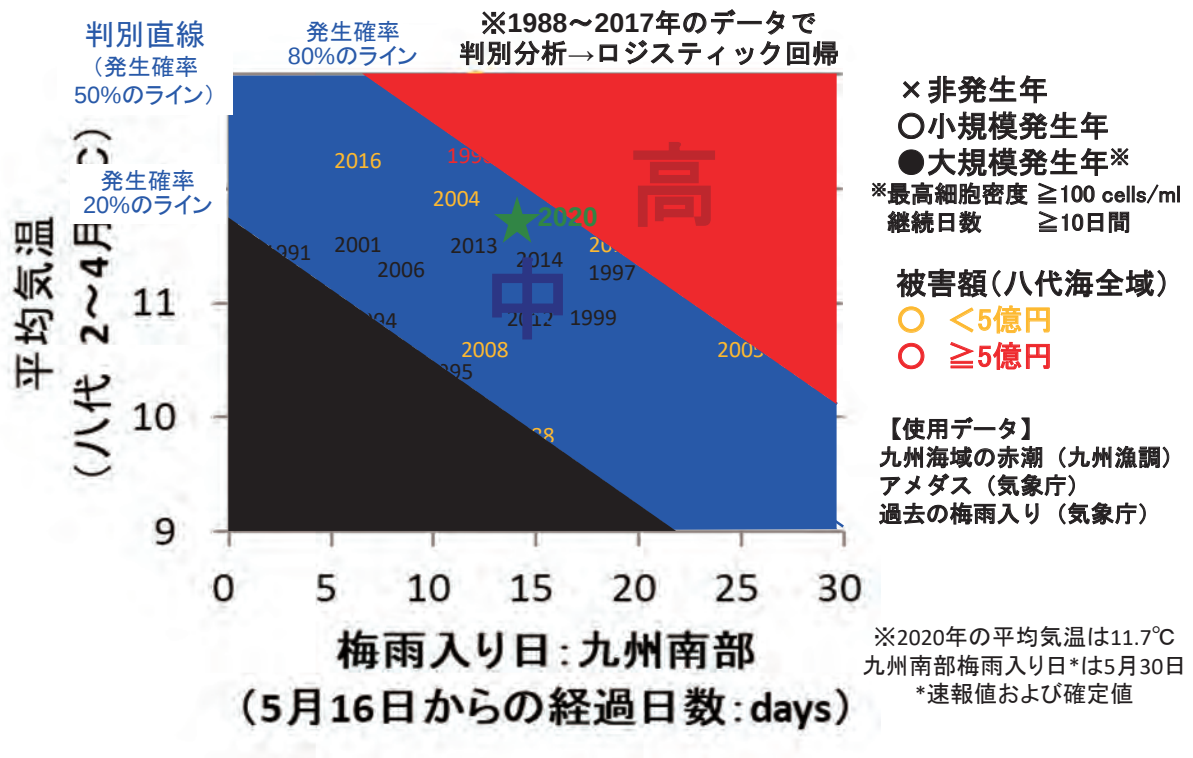


図 21. 八代海における *Chattonella* 赤潮発生と冬から春の気温・梅雨入り時期の関係. 赤潮の発生・非発生について2変量による線形判別分析を行った後, 判別得点のロジスティック回帰によって判別得点ごとの発生確率を算出し, 発生確率80%以上を「高め」, 20%以上80%未満を「中程度」, 20%未満を「低め」と設定した.

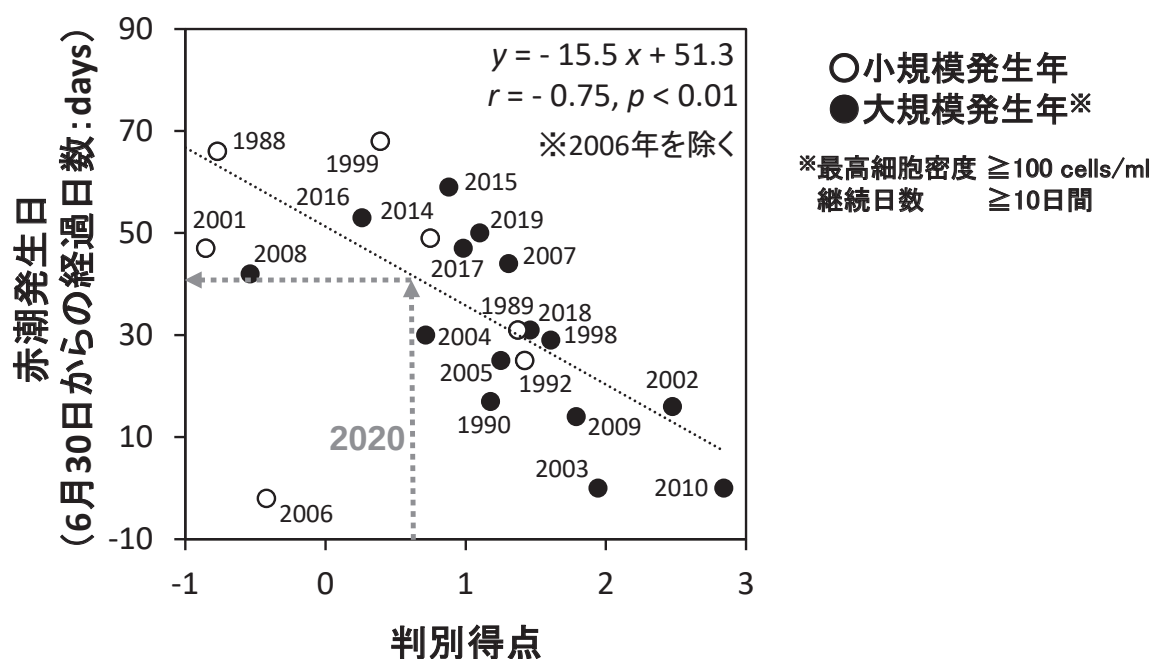


図 22. 線形判別分析で得られた判別得点と赤潮発生日との関係。回帰直線は 2006 年を除く 1988 年から 2019 年のデータを用いて導出した。

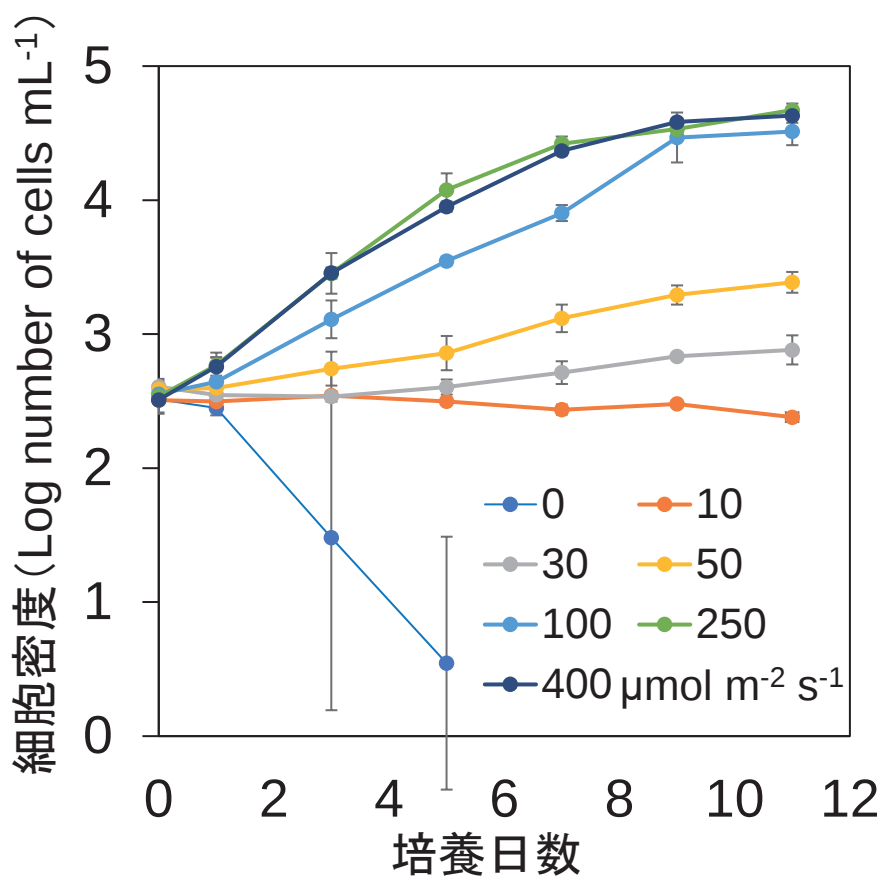


図 23. 異なる光強度における *Chattonella antiqua* の細胞密度の経時変化。

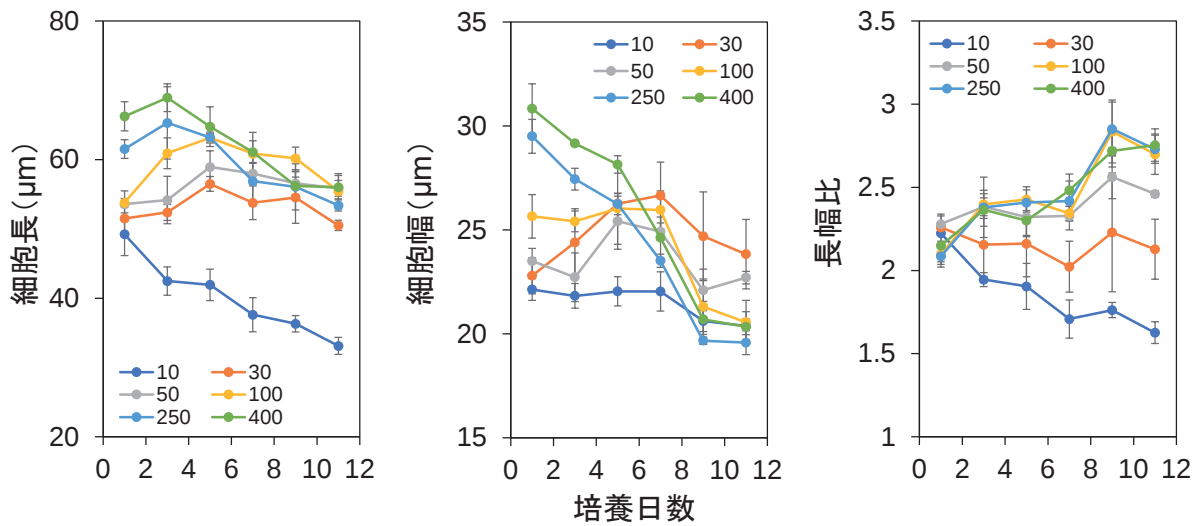


図 24-1. 異なる光強度 ($\mu\text{mol m}^{-2} \text{s}^{-1}$) における *Chattonella antiqua* の細胞サイズの経時変化.

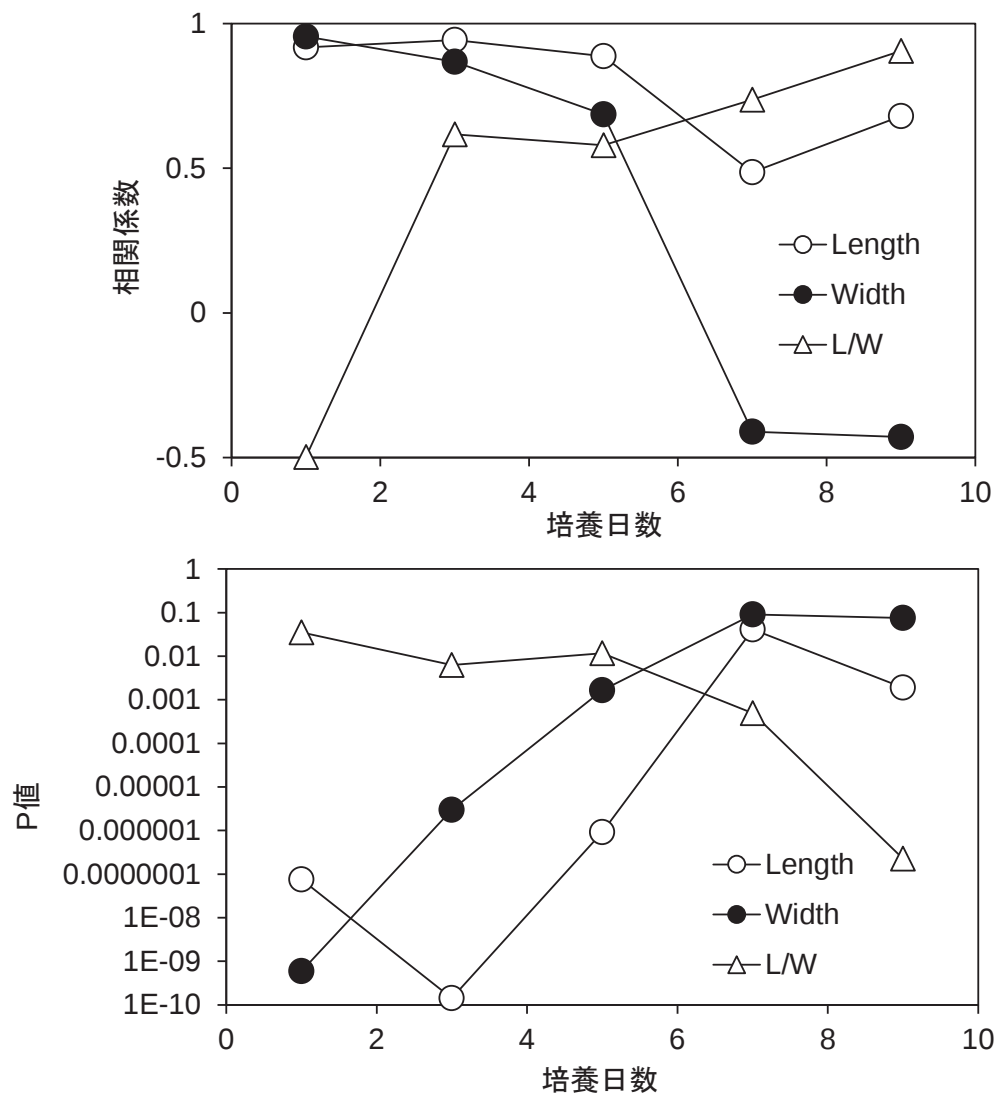


図 24-2. *Chattonella antiqua* の細胞サイズと光強度間の相関の経時変化.

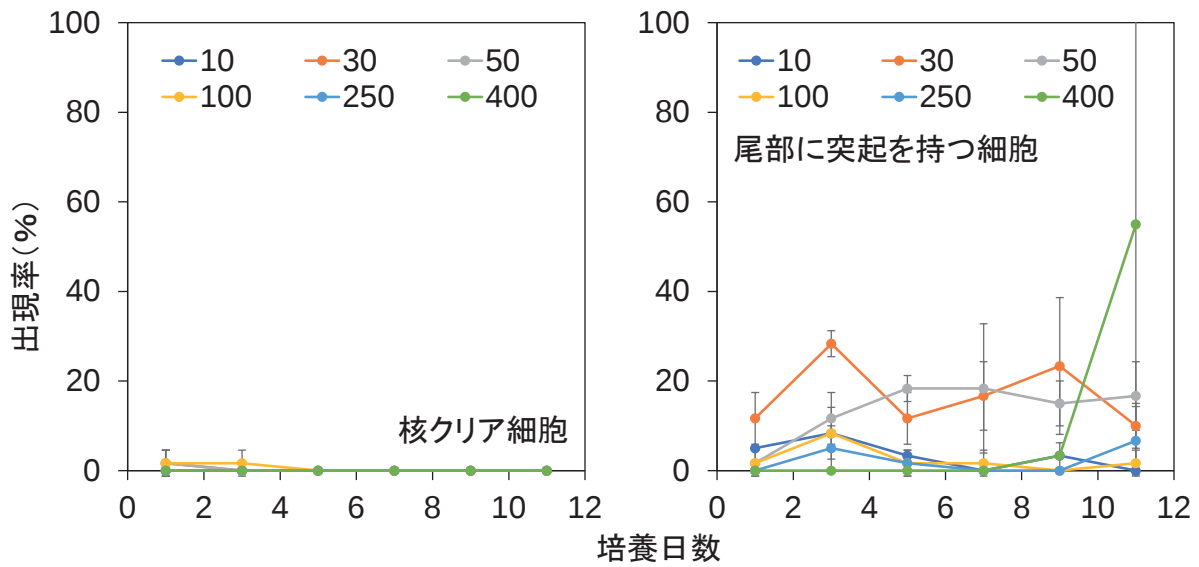


図 25-1. *Chattonella antiqua* の細胞サイズと光強度間の相関の経時変化.



図 25-2. 尾部に突起を持つ *Chattonella antiqua* 細胞.

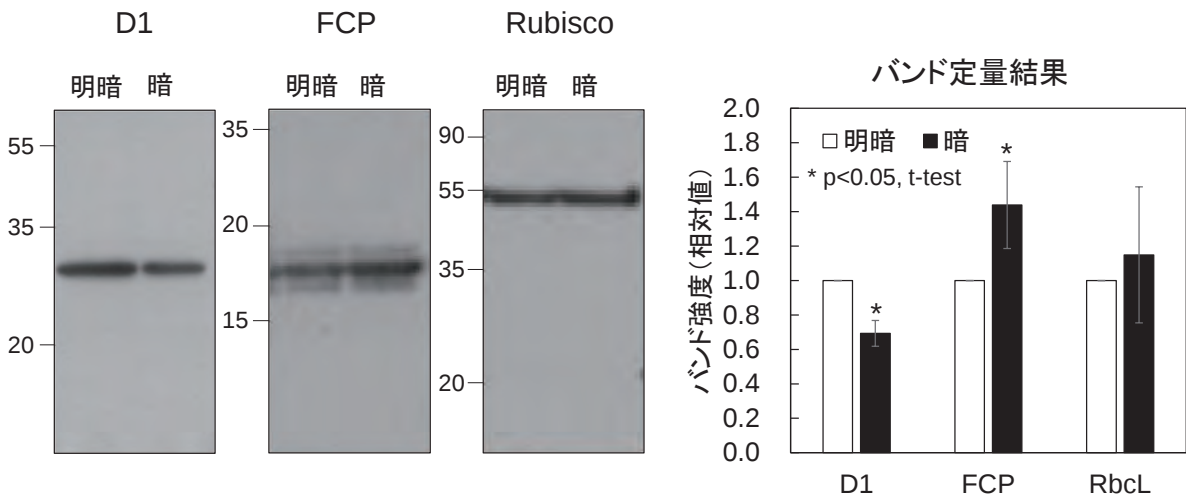


図 26. *Chattonella antiqua* における D1, FCP, Rubisco large subunit のウエスタンブロッティング解析結果. タンパク質を 1 レーンあたり 6 μ g 泳動した. 3 回の繰り返し実験の平均値 $\pm$ SD.